

## 平成 27 年度 第 2 回熊本市公共交通協議会 議事録

### I 日時等

1. 日 時：平成 27 年 10 月 14 日（水）午前 10 時から 12 時まで
2. 場 所：熊本市役所議会棟 2 階 予算決算委員会室
3. 事務局：熊本市 都市建設局 交通政策総室

### II 主な内容

#### 1. 開会

#### 2. 会長挨拶

#### 3. 議事及び報告等

##### (1) 法定協議会としての役割付加等について

- ・ 事務局が資料 1「法定協議会としての役割付加等について」を説明。
- ・ その後質疑応答  
※特になし

##### (2) 委員紹介及び委嘱状交付、オブザーバーの紹介

##### (3) 熊本地域公共交通網形成計画の骨子（案）について

- ・ 事務局が資料 2「熊本地域公共交通網形成計画骨子（案）」について説明
- ・ その後質疑応答

#### (会長)

- ・ 計画骨子案について説明があったが、計画の内容について意見等ある方は積極的に発言していただければと思う。
- ・ 計画の内容について、第 6 章では具体的な数値目標を、第 7 章では基幹公共交通軸の方面別施策について記載してあり、すでに検討されているところだと思う。
- ・ 利用する側から見ても、第 7 章の全体施策で掲げられているものが、目に見える形で進んでいかないと利便性が向上したと感ずることができないと思うので、掲げられている施策がどの程度具体的に進められるかが課題だといえる。
- ・ そこで、第 8 章の計画の達成状況の評価が重要になり、目標値と実績値との比較や PDCA サイクルを実施しながら計画の進捗を確認していくことになると思うが、事務局において PDCA サイクルについてどの程度イメージしているのか。

(事務局)

- ・10年の計画期間の間での見直しを考えているが、見直しの時期についても本日ご意見をいただければと考えている。

(会長)

- ・法定協議会としての役割を付加するに当たり新たに委員として参加いただいた県・合志市・嘉島町の方々より考え等伺いたい。
- ・まずは嘉島町より、熊本市と熊本地域公共交通網形成計画を策定していくわけだが、何か意見等あればお願いしたい。

(委員)

- ・施策の実施に際しては近隣市町村等オブザーバーの方々の意見も踏まえ進めていくことが重要だと考えている。

(会長)

- ・合志市においては独自に計画を策定されるが、熊本市・嘉島町との今後の進め方についてご意見等伺いたい。

(委員)

- ・計画の中では御代志を交通結節拠点と考えており、熊本市及び熊本電鉄との連携が重要であると認識している。パーソントリップ調査においても熊本市と合志市の交流人口の増加が見て取れるので、鉄軌道も踏まえたうえで考えていくことが重要だと思う。

(会長)

- ・これまでは、バスを中心とした議論だったが、これからは鉄軌道の役割も増えてくるということが前回の協議会から議論になっている。鉄軌道の役割については、市長も強く言われているところでもある。
- ・バスを中心とした計画の中で鉄軌道についてどのように盛り込んでいくのが課題となってくる。
- ・熊本県都市計画課よりご意見等伺いたい。

(委員)

- ・熊本県と熊本市が共同事務局となって熊本都市圏都市交通マスタープランを策定しており、5市6町1村でバスと鉄軌道を含めた公共交通と道路の側面から新たな施策を検討しているところ。公共交通に関しては、今回の形成計画骨子案と基本的な方向性は同じである。

- ・今回、実施可能な方面ということで植木町以北及び嘉島町以南の方々がオブザーバーとして参加されているが、菊陽町や益城町の方々にもバス・鉄道等関係があると思うので参加いただいた方がよいのではないかと。

(会長)

- ・菊陽町、益城町についてはバスの再編の問題から大変重要であると思う。その辺の調整については県にお願いすることもあるかと思うが、委員から何かご意見等あればお願いしたい。

(委員)

- ・市町村を超えた再編等の問題については会議に参加させていただきながら利便性が低下しないよう調整等図っていきたいと考えている。  
また、交通事業者の意見等も聞きながら調整を行っていく。

(会長)

- ・都市圏協議会の役割も今後増えてくると思うが、作業部会として何かご意見等あればお願いしたい。

(委員)

- ・協議会に参加いただいている市町村と連携をとって今後も進めていきたい。

(会長)

- ・菊陽町や益城町についてはどのようにお考えか。

(委員)

- ・個人的な意見としては、協議会に参加いただいて方向性を探っていくべきであるとする。

(坂本会長)

- ・事務局はどう考えているか。

(事務局)

- ・合志市、嘉島町については、熊本市が設定する乗換拠点候補地の所在市町村であり、今後候補地の整備等に共同で取り組む必要があることから今回新たに委員となっていたところ。
- ・菊陽町・益城町については、本年9月4日実施の基幹公共交通部会にて公表した乗換拠点候補地に挙がっていないため今回は参加をいただいていない。

- ・今後、議論を増していく中で必要があればご参加いただきたいと考えている。

(会長)

- ・菊陽町や大津町方面の交通問題は非常に重要であるので、県に調整役をお願いしたい。
- ・これらの問題に関わってこられた委員からご意見等あればお願いしたい。

(委員)

- ・形成計画の目的にある「将来に亘り持続可能」ということを一番危惧している。乗務員の不足により、地域によっては他の交通機関に役割を担っていただきたいところがある。
- ・特に、菊陽大津方面ではバスが渋滞するため、例えば、竜田口駅を整備しJRへの乗換を促し、熊本市中心部への車の流入量をコントロールすること等が必要ではないか。

(会長)

- ・御代志の開発に伴い、鉄道とバスの役割が増えると思うが、公共交通事業者の委員からご意見等あればお願いしたい。

(委員)

- ・個人的な意見としては、公共交通のベースは鉄軌道であると思う。
- ・本協議会がバスを中心とした議論であることを否定するわけではないが、もう少し鉄軌道についても議論があってよいのではないか。
- ・御代志の開発については、合志市と協議しながら、バスと鉄軌道が有機的に機能するよう検討していきたい。

(会長)

- ・公共交通の基本が鉄軌道であることは大筋そうであるが、熊本市においてはバス事業者の経営が厳しい状況にある中で、まずはどのようにバス網を保障していくのかということや、バスが公共交通を担っているエリアが一番広いということからバスを中心とした議論を進めてきた。
- ・これからは、鉄軌道との連携が必要となってくるので、形成計画の中にも鉄軌道との有機的な連携ということを組み込んで効率的に議論を進めていきたい。
- ・その他、何かご意見がある方はお願いしたい。

(委員)

- ・バス事業者の経営について、現在も行政から多額の欠損補助がなされているが、これには限度があると思う。
- ・市民の目から見ると、乗車率が高くないであろう路線を走っているバスが見受けられるため、バス事業者において、路線ごとの乗車率を調査し抜本的な見直しを本協議会の中で諮っていく必要があるではないか。

(会長)

- ・利便性と持続性という観点からの踏み込んだ議論が必要ではないかという意見であるが、バス事業者の方から何か意見はないか。

(委員)

- ・持続可能なバス会社の経営という話であろうが、熊本市は平野であるため通学の利用が少ないということから乗車密度が他都市と比較して低くなっており、赤字につながっている。
- ・また、個人的には路線バス会社が黒字となることは無理であると思っているため、路線バスにおいては黒字化を目指すのではなく路線の維持をどこまでするのかという議論が必要だと思っている。
- ・近年原油価格が下落しているものの乗車人員が前年比約 7%減少している。これは、料金改定によるものもあろうが、電車との競合の中で減少している部分もあると思う。この辺も踏まえてどこに公共交通機関を残すのかという議論をしていければと思う。

(委員)

- ・市民の側からすると、公共交通は乗りたいときに好きな場所へいけることが望ましい。今後のバス路線再編にあたっては、拠点ごとに調査を頻繁に行って利用者動向を把握することで効率よく実施できるのではないか。

(会長)

- ・IC カードが導入されたので調査については以前よりやりやすくなったのではないか。
- ・バス会社側からの路線のあり方、鉄軌道をどのように組み込んでいくのかということは今まで以上に汲んでいく必要があると思う。
- ・その他意見がある方はお願いしたい。

(委員)

- ・人を動かすという視点を持って、バス事業者だけの問題ではなく、県や市も一体となって「まち」や「住まい方」をどのようにしていくのかという視点も必要。そうでないと、コンパクトシティや多核連携都市の実現はできないのではないかと。
- ・骨子（案）8 ページの2. 数値目標（仮）②中心市街地に行くときに、公共交通機関を利用する市民の割合とあるが、これは（仮）とあるので、今後変更があるとの認識でよいか。中心市街地に行くときだけの調査では不足しているように思う。

(事務局)

- ・認識のとおり。  
今後、ご意見をいただきながら確定させていきたい。

(会長)

- ・多核連携のまちづくりについて、委員より説明をお願いしたい。

(委員)

- ・現在、本協議会で議論している地域公共交通網形成計画以外に、熊本市では都市づくりの観点から立地適正化計画を策定しているところ。
- ・立地適正化計画では、地域の拠点に都市機能施設の集約を図ること、基幹公共交通軸上にできるだけ住んでいただくように誘導することを併せて実施しようとしている。
- ・都市づくりと公共交通を連携させながら取り組んでいくこととしている。

(委員)

- ・骨子（案）9 ページ 2. 全体施策の利用促進施策についてだが、ICカードの利用促進をもっと図っていくべきかと思う。
- ・また、自家用車利用から公共交通利用への転換を誘導するような施策も計画の中に必要ではないか。

(委員)

- ・骨子（案）5 ページ 第3章上位計画の整理に記載してある熊本市立地適正化計画や熊本都市圏都市交通マスタープラン等との情報を共用する場が必要ではないか。
- ・8 ページの数値目標について、これまで様々な基本計画が策定されているが、数値目標と事業の実施効果がリンクしていない場合が見られるため、実現可能な目標設定を行うことが重要である。

(事務局)

- ・立地適正化計画等との関連については、次回の協議会にて資料としてお示ししたい。
- ・数値目標については今後精査していく。

(委員)

- ・骨子（案）6 ページ 3 公共交通利用者の意向等について、様々な利用者の意向を聴取する必要があると思うが、事務局は現時点でどのように考えているのか。

(事務局)

- ・パーソントリップ調査を実施した際の付帯調査として実施した公共交通に関する利用者の意見等の調査や、また、コミュニティ交通の利用目的等についての調査結果があることから、このようなデータを活用して計画に反映させていきたい。

(委員)

- ・人口減少を見据えた、将来に亘り持続可能な公共交通の構築という難題に取り組むにあたって、受益者負担の観点からも思い切った決断が必要ではないか。
- ・事業者側からは値上げの判断は難しいと思うが、利用者側の理解も得ながら本協議会において受益者負担のあり方についても議論ができればと思う。

(会長)

- ・この問題についてはこれまでも議論してきたところであり、今後も料金の適正水準については今後の補助のあり方も含めて議論していくことになる。
- ・他に意見はないか。

(委員)

- ・利用者の生活の実態を把握することも計画策定においては重要ではないかということを示し添えたい。

#### (4) 協議会スケジュール等について

(会長)

- ・前回開催の第1回協議会において「熊本市公共交通協議会」の体制を拡充したうえで、地域公共交通網形成計画の法定協議会としての役割を付加す

ることや、計画作成までのスケジュールについて事務局より示していたが、前回示したのものから若干の修正が入っていることや今回より新たに委員及びオブザーバーとなられた方もいらっしゃるのをおさらいを含めて、本年度の協議会スケジュールについて事務局から説明をお願いしたい。

・事務局が資料3「協議会スケジュール」について説明

(会長)

- ・かなりタイトなスケジュールで協議の内容も濃いものとなっているので皆様のご協力をお願いしたい。
- ・何か意見のある方はお願いしたい

(委員)

- ・これまでのパブリックコメントを見ると、意見が出なかったということが多数あった。
- ・市民への周知方法が市政だよりのみというのは不足していると思う。市民への説明会を開催し、直接意見交換ができる場を設けるなど周知方法に関して工夫が必要ではないか。

(事務局)

- ・市民への説明会については今後検討させていただきたい。

4 その他

- ・事務局より参考資料「仮バスターミナル」について報告

(会長)

- ・特段の混乱もなく運用されているとのことでしたが、新聞記事によると一部利用者からの不満もあり必ずしもそうとは言えない。
- ・また、将来計画として仮バスターミナルがどうなるのか実はよく見えていない部分もあり、公共交通サイドからはターミナル機能がどうなるのかは大きな課題でもある。
- ・そういった議論が抜けたまま進んできた感があり、また、交通センターと熊本駅をメイン・サブターミナルとすることについては本協議で打ち出してきたことでもある。
- ・形成計画では、この議論は外せないと思うし、仮バスターミナルの将来像についても折り込んで行く必要があるの、事務局には検討いただきたい。

- ・今後、運用に大きな変更等がある場合は、本協議会でも議論したいと思う。
- ・只今の報告を持って本日の議題を終了したい。皆様どうもありがとうございました。